

また や かしはら 町名考 ちよう
北 八木 町

「北矢木村」で初登場

南北の下ッ道（中街道）と東西の横大路（初瀬街道）の交わるあたりに生まれた「八木」は、横大路の北側が十市郡に南側が高市郡に属しながら古代・中世を、一つの町として長く過ごしてきたようです（八木町の項参照）。

江戸前期・寛文年間（一六六一―七二）の古文書に横大路の北側が「北矢木村」と初登場します。どうやら江戸時代に入って八木（矢木）は、横大路を境に北の「北八木村」と南の「八木村」に区画されたようです。

分轄当初に幕府領だった北八木村が元和五（一六一九）年に郡山藩領となり、延宝七（一六七九）年に再び幕府領となったあと文政九（一八二六）年以降は、高取藩領となって明治時代を迎えます。

明治一五年ごろの戸数が一八一戸（人口八七二人）。そのうち商業が一〇戸で、その他の業種が五〇戸に専業農家も二〇戸でした（町村誌集）。明治二二年に北八木と八木・小房村が合併して「八木町大字北八木」となり、昭和三年に「檀原市北八木町」となります。

昭和五〇年代に入り檀原市営駐車場や県檀原文化会館、近鉄百貨店・檀原店などの施設が建設され、近鉄八木駅前北口の景観が整ってきました。